

27.3±4.8 msec と正常と差異なく出現したが、QRS 中期以後は極大は、正常とは異り、右側胸部あるいは前胸部上方に存在した。

ASD (Ⅱ) では、Breakthrough が正常領域に出現する例や正常より左方に出現する例があり、平均 37.5±9.1 msec と遅れて出現した。

PS 例では極大極小間の電位勾配が ASD(Ⅱ) よりも急峻な傾向がみられた以外は、ASD (Ⅱ) と類似のパターンがみられた。

スカラー心電図上、S_IS_{II}S_{III} を示す疾患 (ECD. d-

TGA, SV, DORV 等) は 7 例検討し、以下の特徴的所見が得られた。1) 心室興奮開始 10 msec 極大点は正常より下方に位置した。2) 極大の推移は、心室興奮開始より終了に至るまで反時計軸回転の症例が多くみられた。3) 心室興奮中期に、極大は正常に比し上方に偏位した。4) 平均 27.6±5.8 msec で apical breakthrough が出現し、その後前胸部下部は負領域で覆れた。6) apical breakthrough 出現後、正領域は右上方に位置し、心室興奮終了まで存在した。

(Ⅱ) トレッドミル (ブルース変法) によるファロー四徴症術後、大動脈縮窄、左室流出路狭窄症候の検討

東京女子医大循環器小児科 清 水 秀 二
高見沢 邦 武
高 尾 篤 良

〔対象・方法〕

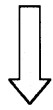
①ファロー四徴症心内修復術後患児 77 人 [RV outflow patch 使用群 45 人, No patch 群 26 人, External conduit 使用群 6 人] ②大動脈縮窄症患児 15 人。③左室流出路狭窄を来す疾患 41 人 [大動脈弁上狭窄症 7 人, 大動脈弁性狭窄症 24 人, 大動脈弁下狭窄症 10 人] に Treadmill 運動負荷テストを Sheffield program で行ない心電図・心拍数・血圧・Endurance time・酸素摂取量を測定した。また機能性心雑音及び運動負荷テストで心室性期外収縮が消失した 257 人 (年令 4~15 才) を control 群とした。

〔結果〕

①ファロー四徴症心内修復術患児について—(イ) RV outflow patch 使用群では右室圧 60 mmHg 以下 and Qp/Qs 1.5 以下で術後 2 年以上経過した患児は Control 群とほぼ同等の運動能を有している。(ロ) No patch 群では右室圧 60 mmHg 以下 and Qp/Qs 1.5 以下の患児は運動能に差があり、特に運動能の悪い 7 人について縦軸に心拍数、横軸に酸素摂取量を取り関係を見ると正常群に比し傾きが急であった。(ハ) 右室圧 60 mmHg 以上 or Qp/Qs 1.5 以上、重篤な不整脈のある患児は Control 群と比し運動能が劣った。

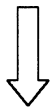
②大動脈縮窄症患児について—血圧は安静臥位と運動負荷後臥位にして測定した。術前 10 人, 術後 8 人 [Patch aortoplasty 6 人, 端々吻合 2 人] である。(イ) Control 群と術前群では安静時収縮期血圧は有意差を認めた。(ロ) 負荷直後では control 群 151±12 mmHg, 術前群 209±37 mmHg, 術後群 174±26 mmHg であり Control 群と術前群・術後群の間に共に有意差を認めた。(ハ) 手術前後に運動負荷を 3 人に行ない最大心拍数は手術前後で変化なかったが最大酸素消費量は著明に増加した。

③左室流出路狭窄を来す患児について—(イ) カテーテル検査時の圧差 (LV-AsAo) と ST 変化は圧差 30 mmHg 以下 (19 人) の時運動負荷時に虚血性 ST 変化なく、40 mmHg 以上 (22 人) の時 1 人を除き虚血性 ST 変化を示した。圧差と虚血性 ST 低下度は比例傾向を示し、圧差が大きいほど low stage より低下した。(ロ) 圧差と運動負荷時の血圧は Control 群では負荷前に比し最大負荷時に収縮期血圧は 43.0±15.2 mmHg 増加したが圧差 40 mmHg 以上の時収縮期血圧は 25.3±11.9 mmHg の増加であり有意差を認めた。(ハ) 術前術後共に運動負荷テスト・カテーテル検査を 4 人に行ない 4 人共に術後早期より収縮期血圧の増加、虚血性 ST 変化の改善が見られ術後経過を見るのに有効であった。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔対象・方法〕

ファロー四徴症心内修復術後患児 77 人〔RV outflowpatch 使用群 45 人, No patch 群 26 人, Externalmal conduit 使用群 6 人〕 大動脈縮窄症患児 15 人。 左室流出路狭窄を来たす疾患 41 人〔大動脈弁上狭窄症 7 人, 大動脈弁性狭窄症 24 人, 大動脈弁下狭窄症 10 人〕に Tredmill 運動負荷テストを Sheffield program で行ない心電図・心拍数・血圧・Endurance time・酸素摂取量を測定した。また機能性心雑音及び運動負荷テストで心室性期外収縮が消失した 257 人(年齢 4~15 才)を control 群とした。